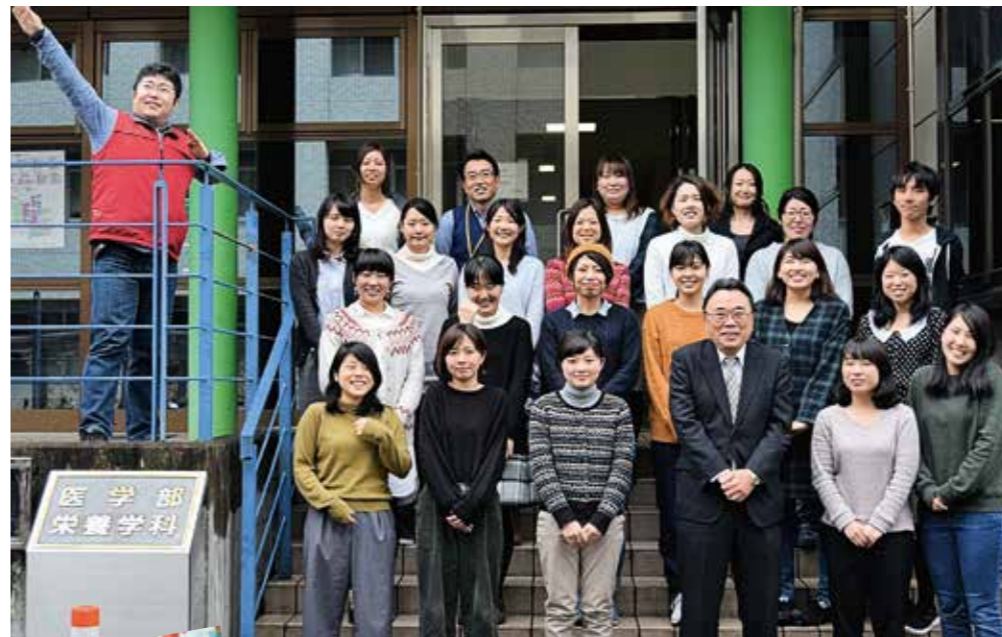




阪上先生(最前列右から3人目)  
堤先生(最後列右端)

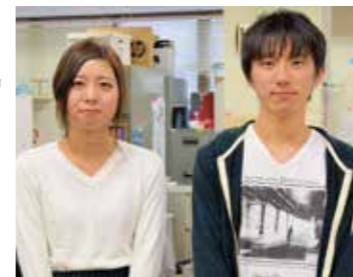


## 自分がおもしろいと思った研究をすれば 成果はおのずと見えてくる

大学院医歯薬学研究部(医学系)  
代謝栄養学分野教授

**阪上 浩** (さかうえひろし)

◎ナビゲーター  
栄養生命科学教育部人間栄養科学専攻  
博士後期課程 平成29年3月修了  
博士前期課程 平成29年3月修了



**黒田 雅士** (くろだまさし)  
**松島 里那** (まつしまりな)



### 肥満と糖尿病の関係を研究 阪上グループ

阪上浩教授の研究室では、教授と原田永勝(はらだながかつ)講師、堤理恵(つづみりえ)助教の3人が担当して、数名の学生がグループとなり、それぞれ多様な角度から研究が進行しています。なかなか先の見えない地道な研究もあれば、すぐにでも臨床現場で使えるような成果も出ています。

ナビゲーターの黒田さんは阪上先生の「脂肪細胞研究グループ」で、「太ると脂肪に炎症が起こりやすい」「炎症が起こると糖尿病になりやすい」という観点から研究しています。

糖尿病の大きな原因は遺伝子、ということはおわかってはいますが、実際の患者の数はそれだけでは説明できないほど増えています。つまり家族に糖尿病の人がいなくても糖尿病になる人がそれだけ多いわけです。遺伝子以外の原因もいくつか考えられています。中でも「肥満」は要チェックです。私たちは単純に食生活や運動不足、カロリーオーバーなどを思いうか

べますが、そのメカニズムは多くの機関でまだまだ研究中なのです。ここでキーワードになるのが「脂肪組織の炎症」と「インスリンの抵抗性」です。

そこで黒田さんたちが着目したのが「細胞の死」です。太って脂肪が貯まると、圧迫されて死ぬ脂肪細胞が増えます。炎症はその死んだ細胞を排除するために起こっているのではないかと。これにより、炎症によってインスリンの効き目が悪くなる(抵抗性)のではないかと、そのメカニズムを解明しようとしています。

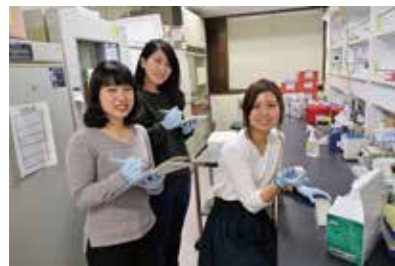
阪上先生のグループでは他に、「SPORTS ラット研究グループ」(運動制御機構の末梢シグナルの役割解明)、「脂肪酸研究グループ」(肥満病態に対する影響の検討や動脈硬化の発症に着目)が研究に取り組んでいます。

### ふりかけががん患者の栄養不足を救う!? 堤グループ

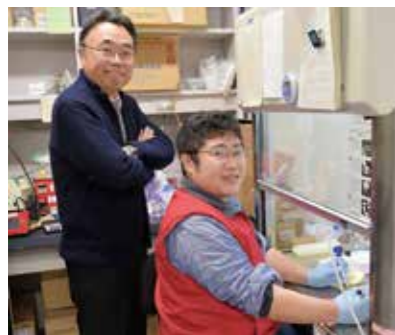
もうひとりのナビゲーター、松島さんは堤先生の指導の下「がん患者における味覚異常の機序解明」も行なっています。紙面の関係で今回は詳しく紹介できませんでしたが、「原田グループ」では、「脂質合成酵素G P A Tに関する研究」(遺伝子と肥満や脂質異常症の発症との関連性を検討)、「遺伝子変異と疾患形成に関する栄養学的研究」(遺伝性疾患および生活習慣病の新しい治療手段を開発)など、遺伝子レベルでの研究に取り組んでいます。

研究に関して阪上先生は、「好きな研究を自由に」「好きだから楽しみなが打ち込める」と。本当に自分がおもしろいと思うことをやれるという方針に、学生の人氣も高く、いつも大所帯となっています。研究以外ではお花見やバーベキュー、合宿など、わきあいあいと仲の良い研究室です。「阪上先生は研究に対しては的確

徳島大学大学院 医歯薬学研究部  
代謝栄養学分野 ホームページ  
<https://taisnaeyo.jindo.com/>



堤先生(左)



阪上先生(左)

